

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第10週の発生動向

### 全数報告の感染症 (10週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核4例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：報告なし。5類感染症：アメーバ赤痢1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	男	肺結核	咳
		都城	0~4歳	男	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
			日向	90歳代	女	疑似症患者
5類	アメーバ赤痢	延岡	50歳代	男	腸管アメーバ症	下痢、粘血便

### 定点把握の対象となる5類感染症

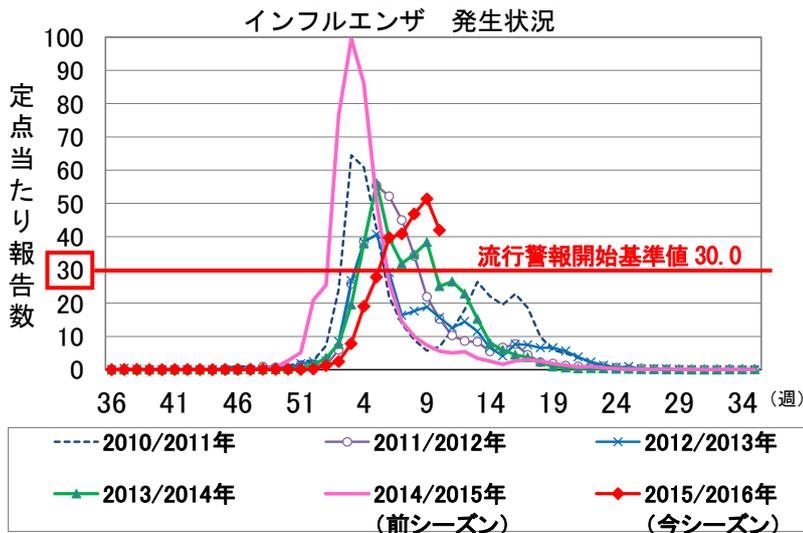
・定点医療機関からの報告総数は3,205人(定点当たり68.2)で、前週比88%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は咽頭結膜熱で、減少した主な疾患はインフルエンザとRSウイルス感染症であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【インフルエンザ】

・報告数は2,472人(41.9)で、前週比82%と減少し、例年同時期の定点当たり平均値\*(15.1)の約2.8倍であった。日南(49.4)、宮崎市(48.3)、延岡(47.4)保健所からの報告が多く、年齢群別では5歳未満が全体の23%、5-9歳が38%、10-14歳が19%、15-19歳が3%、20-59歳が13%、60歳以上が4%を占めた。詳細後述。

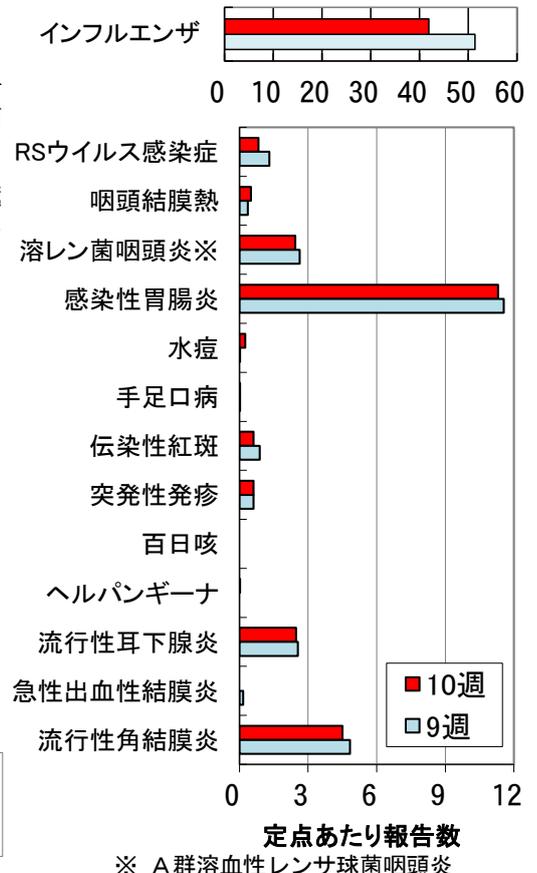
\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

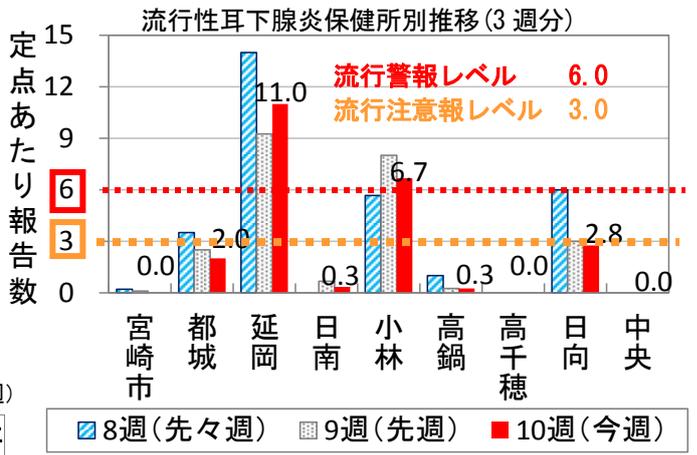
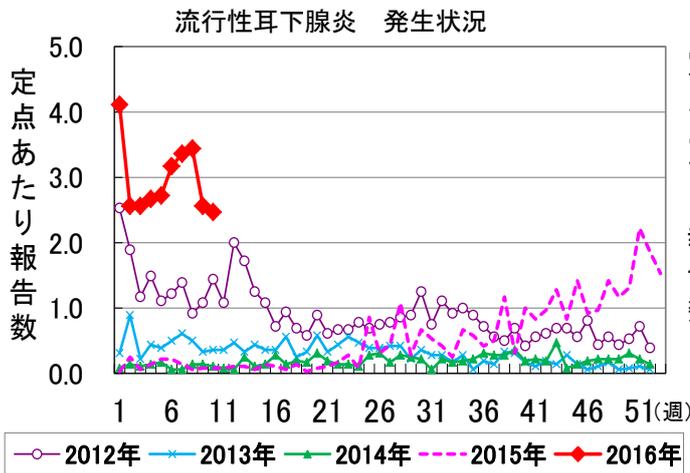


##### 【流行性耳下腺炎】

・報告数は89人(2.5)で、前週比97%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.80)の約3.1倍であった。延岡(11.0)、小林(6.7)保健所からの報告が多く、年齢別では4~5歳が全体の約4割を占めた。

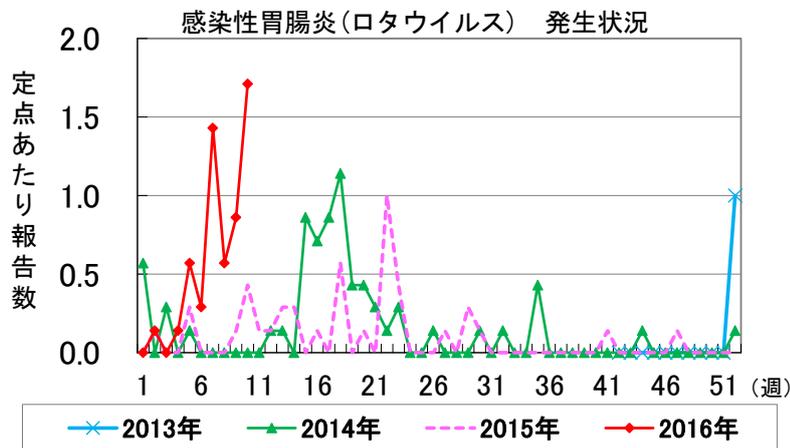
### 《前週との比較》





★基幹定点からの報告★

- 細菌性髄膜炎：小林保健所から1例報告があった。60歳代で、病原体は検査中である。
- 無菌性髄膜炎：都城保健所から1例報告があった。0～4歳であった。
- マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から4例、延岡保健所から1例報告があった。0～4歳が1例、5～9歳が3例、10歳代が1例であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：宮崎市及び日向保健所から各5例ずつ、高鍋保健所から2例報告があった。0～4歳が10例、5～9歳が1例、50歳代が1例であった。



★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(48.3)
都城	インフルエンザ(41.5)
延岡	インフルエンザ(47.4)、流行性耳下腺炎(11.0)
日南	インフルエンザ(49.4)
小林	インフルエンザ(37.6)、感染性胃腸炎(24.3)、流行性耳下腺炎(6.7)
高鍋	インフルエンザ(33.0)
高千穂	インフルエンザ(11.0)
日向	インフルエンザ(34.8)
中央	インフルエンザ(44.5)、伝染性紅斑(4.0)

\*流行警報レベル開始基準値\*

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)

\*流行注意報レベル基準値\*

- ・インフルエンザ(10.0)

□ 病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年3月14日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(O2:H51)	20歳代	女	2016.2.18	—	便	2016.3.10
EPEC(O2:HUT)	20歳代	女	2016.2.19	発熱(38.3℃)、水様性下痢、嘔吐	便	2016.3.8
EPEC(O20:H6)	30歳代	女	2016.2.24	無症状	便	2016.3.10
Salmonella Manhattan(O8(O6):d:1,5)	—	女	2016.3.3	—	便	2016.3.10

○3名の患者からO型別不明の腸管病原性大腸菌（EPEC）が分離された。EPECの判定基準は*eae*（インチミン遺伝子）陽性の大腸菌で、ST/LT/VTを持たない大腸菌とされている。従来、EPECは特定のO群血清型検出で報告されていたが、現在はPCR法による*eae*の有無で判定されることから、今後もOUTのEPECは増えることが予想される。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状等	材料	検出日
エコーウイルス16型	10歳代	女	2016.1.12	無菌性髄膜炎、39.0℃、頭痛、胃腸炎、嘔気、嘔吐、肝機能障害	髄液	2016.3.3
エコーウイルス16型	0～4歳	男	2016.1.18	エンテロウイルス疑い、38.5℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.3.14
エコーウイルス16型	0～4歳	女	2016.2.4	不明発疹症、39.6℃	咽頭ぬぐい液	2016.3.3
エコーウイルス18型 エコーウイルス16型(再掲)	0～4歳	男	2016.1.15	不明発疹症、37.5℃	咽頭ぬぐい液	2016.3.10 2016.2.15
ライノウイルス	0～4歳	女	2016.2.27	肺炎、下気道炎、38.0℃	咽頭ぬぐい液	2016.3.3
ヒトメタニューモウイルス	0～4歳	女	2016.2.22	急性肺炎、下気道炎、ARDS、40.7℃	咽頭ぬぐい液	2016.3.4

○無菌性髄膜炎と診断された1名、エンテロウイルス疑いの1名、不明発疹症の1名からエコーウイルス16型が分離された。また、不明発疹症の1名からエコーウイルス18型とエコーウイルス16型が分離された。エコーウイルスは乳幼児では発疹症を起こしやすく、幼・学童期では無菌性髄膜炎を起こしやすい傾向があると言われている。今回エコーウイルスが分離された4例中3例は1歳未満の乳児で症状はいずれも発疹である。エコーウイルスをふくむエンテロウイルス属は、症状がおさまっても2～4週間はウイルスが便に排泄されるため、乳幼児のいる家庭ではウイルスが蔓延しないよう対策が必要である。

📊 全国 2016 年第 9 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第9週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	316例			
3類感染症	細菌性赤痢	5例	腸管出血性大腸菌感染症	10例	
4類感染症	E型肝炎	9例	A型肝炎	4例	エキノコックス症 1例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	3例	デング熱 6例
	レジオネラ症	23例			
5類感染症	アメーバ赤痢	6例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 13例
	急性脳炎	15例	クリプトスポリジウム症	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病 3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5例	後天性免疫不全症候群	15例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 5例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	48例	水痘（入院例） 4例
	梅毒	55例	破傷風	3例	風しん 2例

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比99%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した疾患は手足口病と伝染性紅斑で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

インフルエンザの報告数は174,970人(35.4)で前週比98%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加しているのは22都道府県で、特に愛知県(57.4)、愛媛県(56.9)、鹿児島県(51.6)からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が20%、5-9歳が35%、10-14歳が18%、15-19歳が4%、20-59歳が18%、60歳以上が5%であった。

伝染性紅斑の報告数は1,554人(0.49)で前週比107%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.26)の約1.9倍であった。秋田県・山形県(各2.1)からの報告が多く、年齢別では4～6歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第10週(3月7日～3月13日)

疾病名		第9週	第10週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3030	2472	772	415	332	247	188	198	22	209	89
	定点あたり	51.36	41.90	48.25	41.50	47.43	49.40	37.60	33.00	11.00	34.83	44.50
RSウイルス 感染症	報告数	47	30	11	6	3	2	2	2		4	
	定点あたり	1.31	0.83	1.10	1.00	0.75	0.67	0.67	0.50	0.00	1.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	13	18	4	4	1	4	1	3			1
	定点あたり	0.36	0.50	0.40	0.67	0.25	1.33	0.33	0.75	0.00	0.00	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	95	88	31	13	8	14	1	8		10	3
	定点あたり	2.64	2.44	3.10	2.17	2.00	4.67	0.33	2.00	0.00	2.50	3.00
感染性胃腸炎	報告数	416	407	90	37	48	56	73	20	7	66	10
	定点あたり	11.56	11.31	9.00	6.17	12.00	18.67	24.33	5.00	7.00	16.50	10.00
水痘	報告数	1	9	4	1		1	2	1			
	定点あたり	0.03	0.25	0.40	0.17	0.00	0.33	0.67	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	1	1	1								
	定点あたり	0.03	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	32	22	7	7	1	1	1	1			4
	定点あたり	0.89	0.61	0.70	1.17	0.25	0.33	0.33	0.25	0.00	0.00	4.00
突発性発しん	報告数	22	22	7	9	1	1		2		1	1
	定点あたり	0.61	0.61	0.70	1.50	0.25	0.33	0.00	0.50	0.00	0.25	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	92	89		12	44	1	20	1		11	
	定点あたり	2.56	2.47	0.00	2.00	11.00	0.33	6.67	0.25	0.00	2.75	0.00
急性出血性結膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	29	27	17	10							
	定点あたり	4.83	4.50	5.67	5.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数		1					1				
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1	1		1							
	定点あたり	0.14	0.14	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数		5	4		1						
	定点あたり	0.00	0.71	4.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	6	12	5					2		5	
	定点あたり	0.86	1.71	5.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00		5.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～10週)

2類感染症	結核	40例(4)			
4類感染症	A型肝炎	2例	つつが虫病	4例	
5類感染症	アメーバ赤痢	4例(1)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例	急性脳炎
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	1例	梅毒
	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	1例	

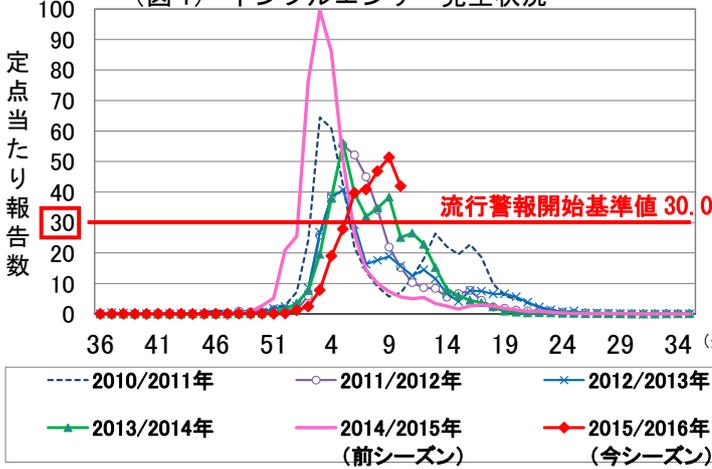
( )内は今週届出分、再掲

# インフルエンザ情報《県内第10週、全国第9週（再掲）》

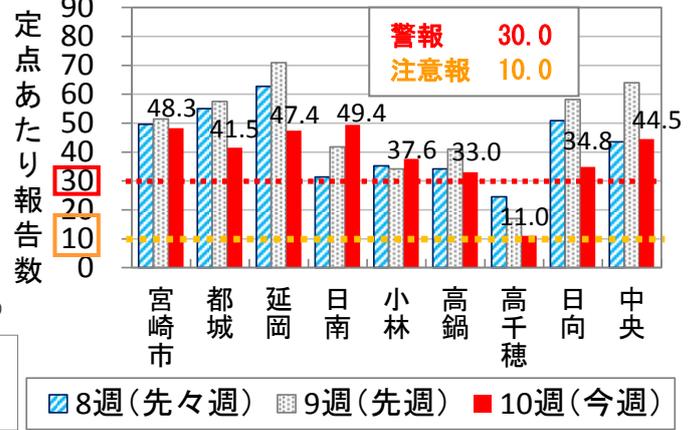
## □ 県内第10週インフルエンザ発生動向

2016年3月7日～3月13日までの1週間で2,472人（定点あたり41.9）の報告があった。前週の約0.8倍と減少し、例年同時期の定点あたり平均値\*（15.1）の約2.8倍であった（図1）。日南（49.4）、宮崎市（48.3）、延岡（47.4）保健所からの報告が多く（図2）、年齢群別では5歳未満が全体の23%、5-9歳が38%、10-14歳が19%、15-19歳が3%、20-59歳が13%、60歳以上が4%を占めた（図3）。

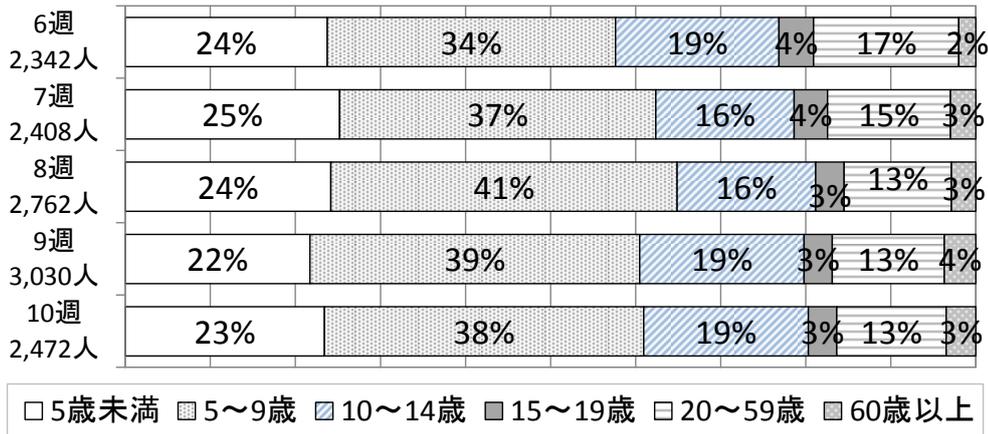
（図1）インフルエンザ発生状況



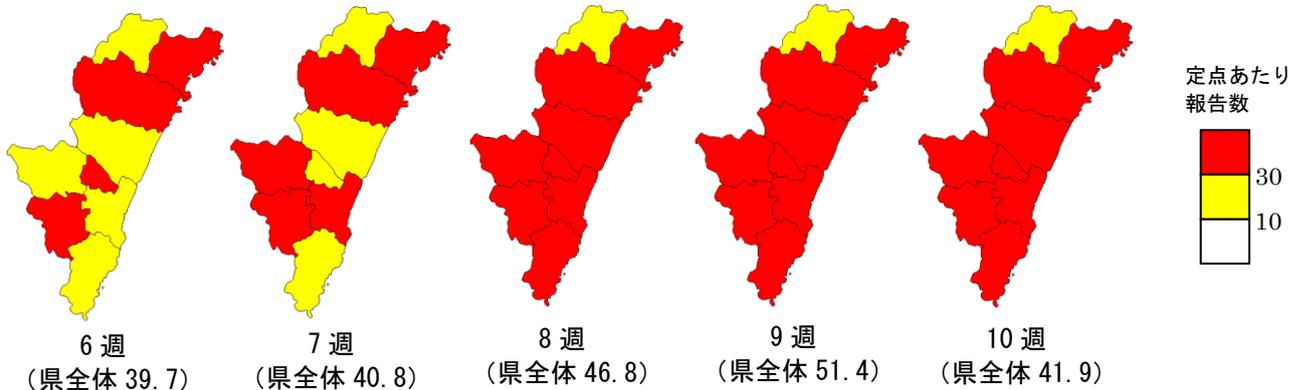
（図2）インフルエンザ保健所別推移（第8～10週）



（図3）年齢群別割合の推移（第6～10週）



保健所別インフルエンザ警報・注意報レベル状況 第6～10週



## □ 全国第9週インフルエンザ発生動向

2016年2月29日～3月6日までの1週間で174,970人（35.4）で、前週比98%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加しているのは22都道府県で、特に愛知県（57.4）、愛媛県（56.9）、鹿児島県（51.6）からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が20%、5-9歳が35%、10-14歳が18%、15-19歳が4%、20-59歳が18%、60歳以上が5%であった。

## 📊 月報告対象疾患の発生動向 <2016年2月>

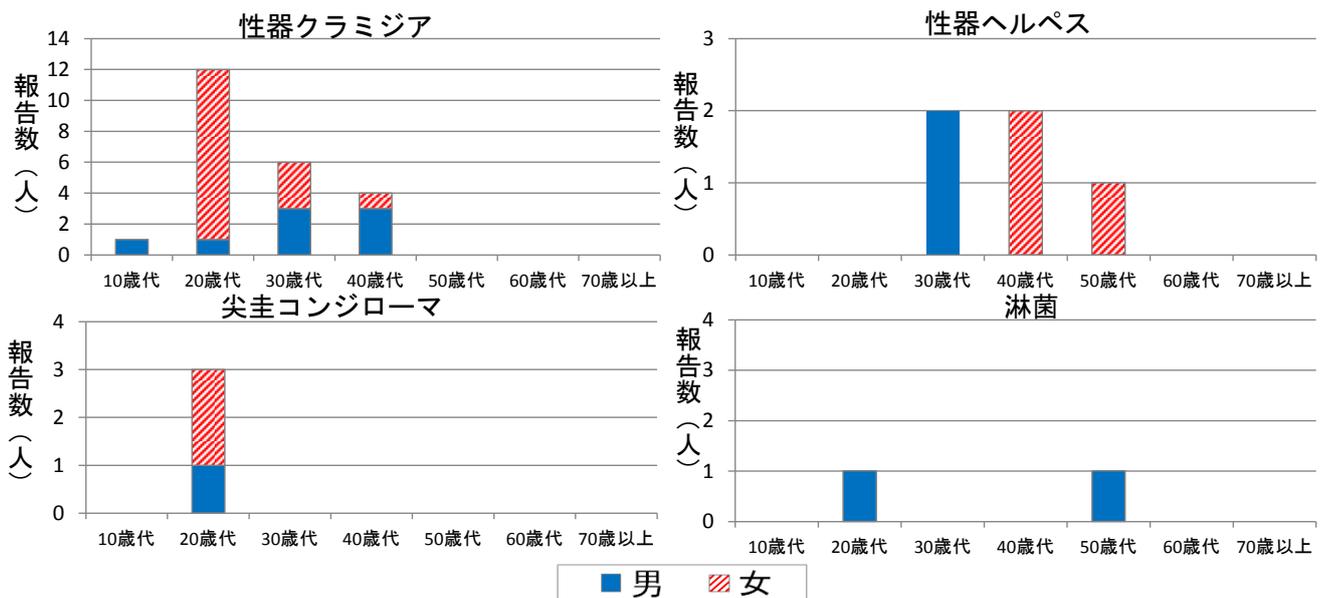
### □性感染症

**【宮崎県】 定点医療機関総数：13**

定点医療機関からの報告総数は33人(2.5)で、前月比132%と増加した。また、昨年2月(2.7)の94%であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数23人(1.8)で、前月の約1.3倍、昨年2月の約0.9倍であった。20歳代が全体の約半数を占めた。(男性8人・女性15人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.38)で、前月の2.5倍、昨年2月の約1.3倍であった。(男性2人・女性3人)
- 尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、前月の1.5倍であった。(昨年2月報告なし)(男性1人・女性2人)
- 淋菌感染症：報告数2人(0.15)で、前月の約0.7倍、昨年2月の0.4倍であった。(男性2人)



**【全国】 定点医療機関総数：975**

定点医療機関からの報告総数は3,706人(3.8)で、前月比98%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,899人(2.0)で前月比98%、性器ヘルペスウイルス感染症738人(0.76)で前月比109%、尖圭コンジローマ430人(0.44)で前月比98%、淋菌感染症639人(0.66)で前月比88%であった。

### □薬剤耐性菌

**【宮崎県】 定点医療機関総数：7**

定点医療機関からの報告総数は20人(2.9)で前月比91%と減少した。また昨年2月(4.1)の約0.7倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人(2.9)で、前月の約1.0倍、昨年2月の約0.7倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

**【全国】 定点医療機関総数：475**

定点医療機関からの報告総数は1,534人(3.2)で、前月比100%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,354人(2.9)で前月比100%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症169人(0.36)で前月比100%、薬剤耐性緑膿菌感染症11人(0.02)で前月比100%であった。